

三重・岡山ブロック



©手塚プロダクション

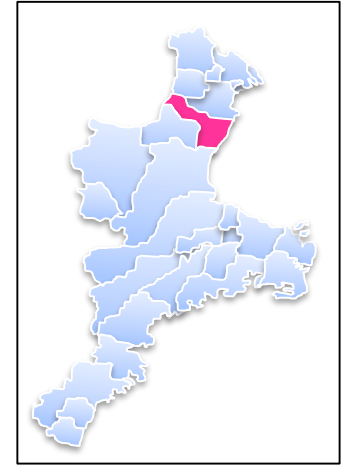
三重県鈴鹿市長
末松 則子
Suematsu Noriko

1 鈴鹿市における外国人の状況

◇外国人人口と比率

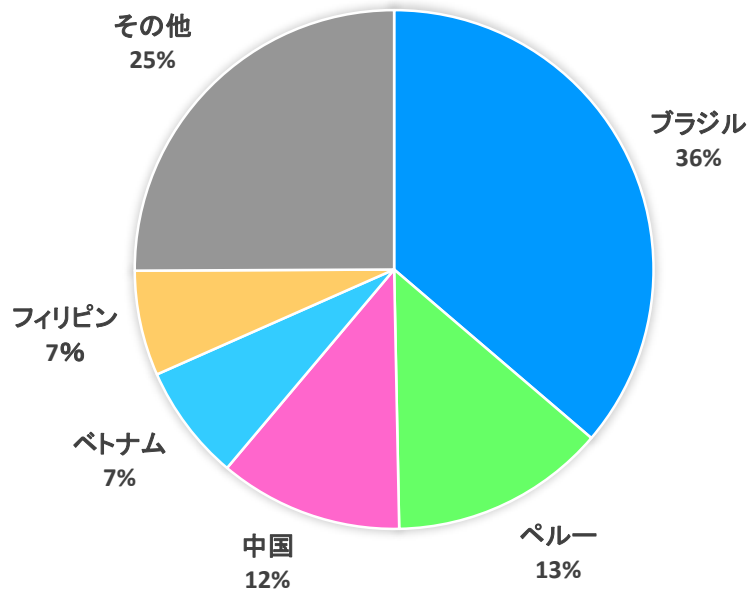
令和元年11月末現在

総人口	うち外国人人口	比率
199,984 人	8,664 人	4.33 %



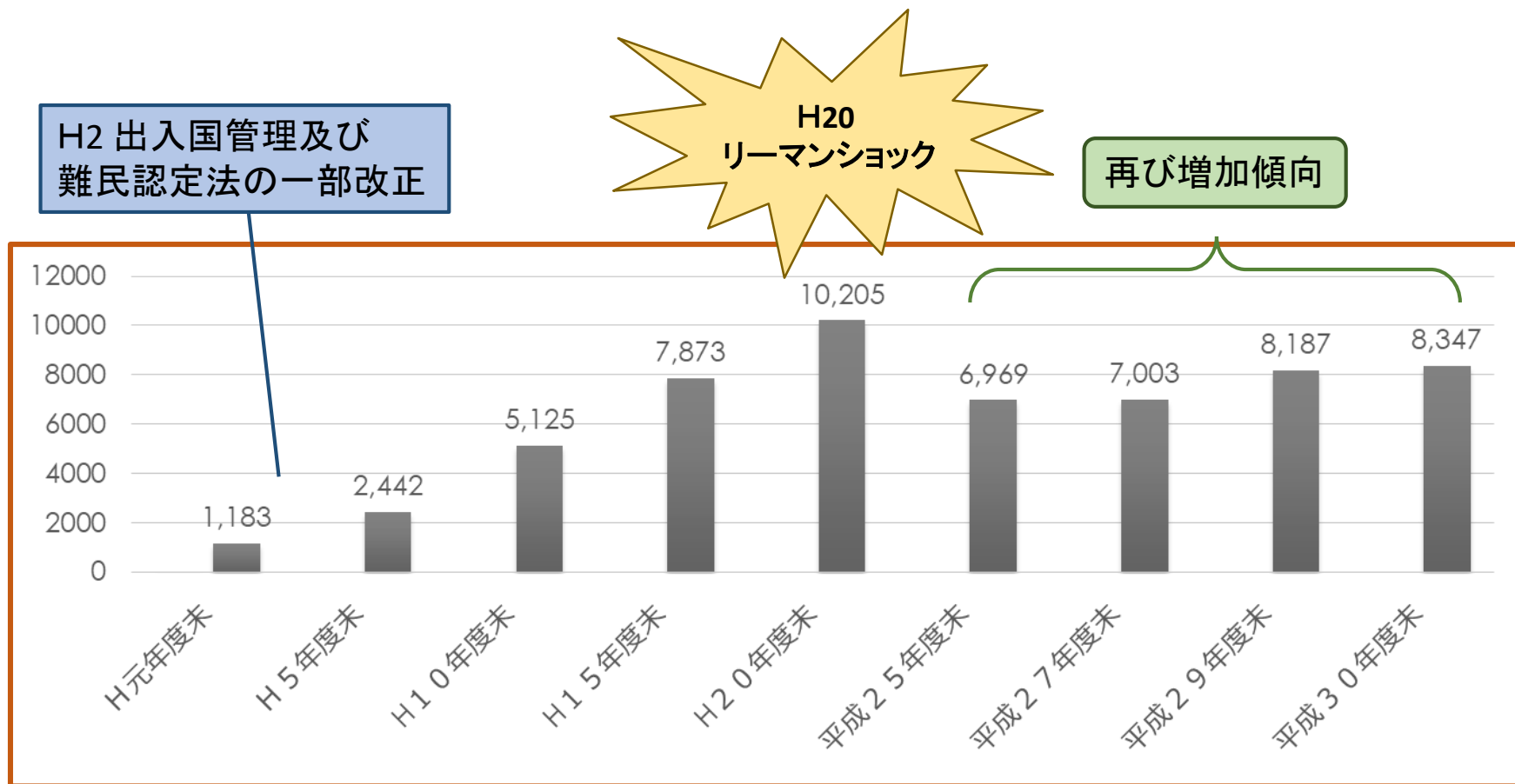
◇国籍別外国人人口と割合

令和元年11月末現在



国名	人口
ブラジル	3,141人
ペルー	1,164人
中国	992人
ベトナム	627人
フィリピン	568人
その他	2,172人

2 鈴鹿市における外国人人口の推移



3 日本語教室(市内3箇所) における課題

ボランティアによる日本語教室

* 公民館, コミュニティセンター等で開催

★牧田いろは教室

★鈴鹿日本語会AIUEO

★桜島日本語教室

地域のボランティアによる開催。

人材不足や適当な広さの学習環境の確保に苦慮している。

日本語学習だけでなく、日本の文化や社会習慣について学んだり、生活相談にも応じるなど、外国人市民に寄り添った活動を実施している。

【課題1 教室の開催日時】

各教室とも、比較的通いやすいよう、平日の夜間や週末に開催

⇒外国人学習者は、長時間就労のため、学習の時間を継続して取ることが困難。

また、この開催日時により新たなボランティアスタッフのなり手が不足。

【課題2 教室運営の限界】

外国人学習者、特に技能実習生が増加傾向にあり、ボランティアスタッフの高齢化とスタッフ不足

⇒外国人の就労先企業等から受入れを依頼されることもあり、対応に苦慮している。

このまま増加傾向が継続すると場所の確保も困難であるとともに、新規ボランティアスタッフが見込めない中、高齢化が進む現在のスタッフの継続も限界になってきている。

4 日本語教育の新たな取り組み

★外国籍児童 夏休み学習支援教室の開催

8月1日から30日までの平日(8月12日から15日を除く), 外国籍の小学生を対象とした学習支援教室を開催。

参加者:24名 ボランティア:21名(学生含む)

主催:公益財団法人 鈴鹿国際交流協会



▲ポスターを書く前に、ポイント説明を聞く子どもたち



▲可能な限り個別対応に努め、子どもたちに寄り添いました

5 将来を担う子どもたちへの支援①

★市内小中学校の取り組み

リライト教材の作成

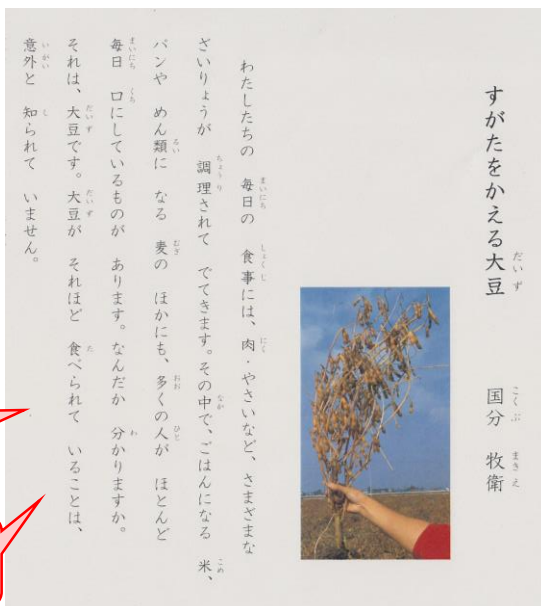


教科書

作成

ふりがな

分かち書き



- ▶ 在籍学級とのつながり
- ▶ 「読める」ことが自信に
- ▶ 保護者の安心に



JSLバンドスケールの活用

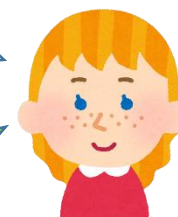
早稲田大学大学院開発
H20年からJSL児童全員に実施

聞く

読む

話す

書く



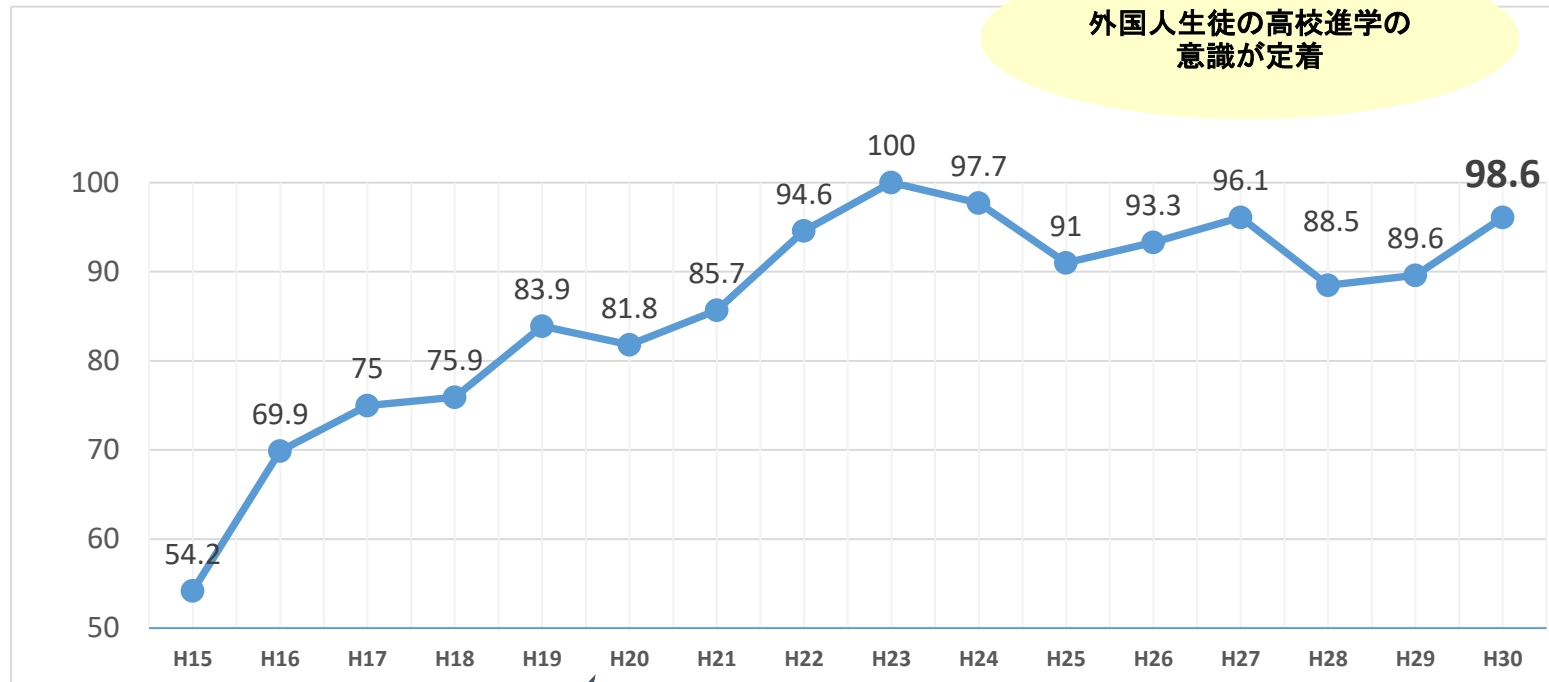
書く

4つの項目をチェック

書く		4つの項目をチェック
A-1A	書く レベル1A	グループA…入国まもないが、 日本語で書くのは初めて
1		○ 教科書や身の回りの印刷物などの語句をまねるこ
2		・ 書く作業に集中し、取り組むことができるが、話
3		・ 二言語辞書を使って一語ずつ翻訳することもある
4		・ 第一言語で書くことはできる。
5		・ 原稿用紙などに縦に書くことを理解するのに時間
A-1B	書く レベル1B	グループB…入国まもなく、第一 書くのは初めて
1		○ 第一言語での読み書き経験と、初歩的な読み書き
2		・ 読み書きの概念や文字への気づきが定着し、日本
A-2	書く レベル2	日本語で書くことを試み続ける。
1		○ 身の回りにある文字を書き写したり、教師が書いて
2		○ 写真や図表に見出しや題名を書き込むことができ
3		○ クラス全体やグループでのテキストづくりに、最
4		
5		
6		
A-3		
1		

日本語の能力の把握
→指導計画の作成

5 将来を担う子どもたちへの支援②



日本語教育構築
プロジェクトの開始

- ・JSLバンドスケールの実施
- ・日本語担当者ネットワーク会議
- ・リライト教材の作成
- ・進路ガイダンスの開催
- ・個別の指導計画の作成
- ・国際教室研究授業
- ・日本語指導研修会
- ・通訳の派遣・翻訳 など

6 就学前施設(42園)における外国籍児童の状況

1 9 か国

令和元年9月1日現在

国名	人口
ブラジル	129人
ペルー	61人
中国	33人
ボリビア	13人
インドネシア	11人
その他	36人
計	283人



7 就学前施設(公立保育所)での独自対応

外国籍児童が安心して園生活を送り、また、保護者が安心して児童を園に預けることができるよう、様々な取組を実施

・「外国人コーディネーター」の配置

→ポルトガル語、スペイン語の通訳(各1名)ができ、各園を巡回

→通常の相談、トラブル発生時、緊急時の保護者対応と翻訳業務

・「外国人加配保育士」の配置 →在籍数の多い園に配置



外国の手遊び・歌・ダンス・絵本の読み聞かせ等 → 母国語への理解



多文化交流のかけ橋としての役割

8 公立保育所での取り組み①

絵カードを使った子どもへの支援



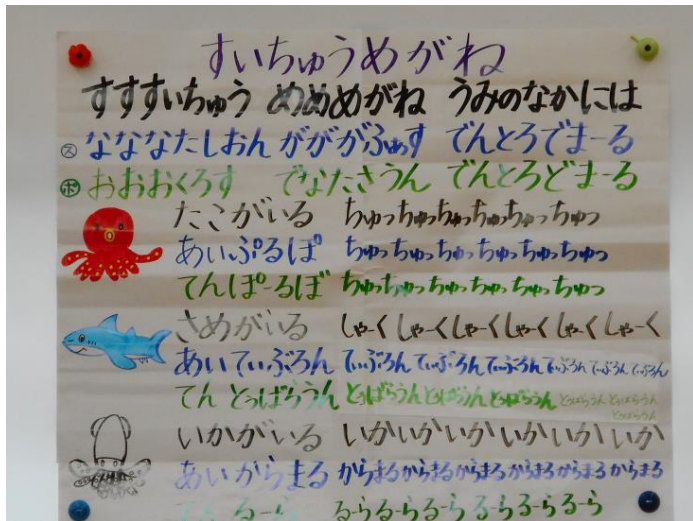
絵カードを使った保護者支援



ポルトガル語・スペイン語を
覚えよう！



8 公立保育所での取り組み②



楽しみながら
みんなで一緒に覚えよう！

いろいろな国があります！



9 就学前施設(私立保育園)での独自対応

外国籍児童が安心して園生活を送り、また、保護者が安心して児童を園に預けることができるよう、様々な取組を実施

一例

- ・児童や保護者への対応
 - ポルトガル語, スペイン語ができる通訳や保育士を配置
 - 中国語の通訳を配置
 - 保育補助員(ペルー国籍, ケニア国籍)の配置
 - 英語ができる人材の配置
- ・通訳の人材確保が困難な園 → 翻訳機の活用

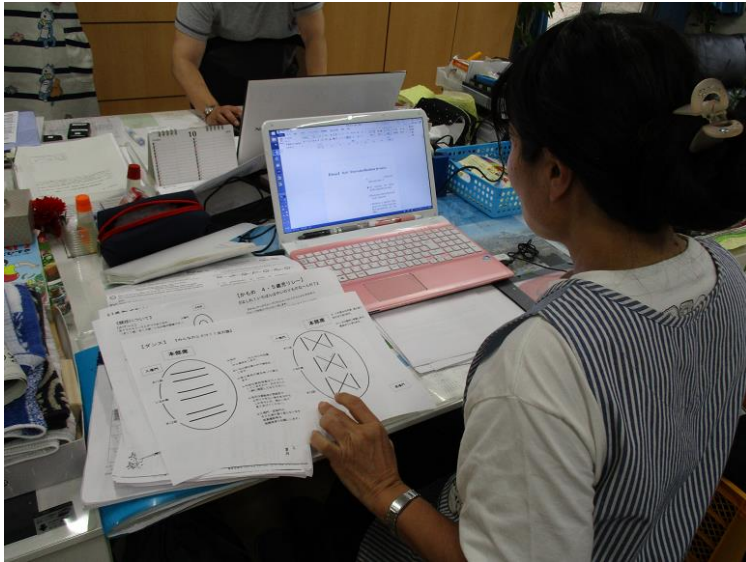
各園での母国語への理解

言葉が通じない児童・保護者の安心感



10 私立保育園での取り組み①

運動会のプログラムを翻訳



園だよりを翻訳



翻訳機を活用

10 私立保育園での取り組み②

通訳ができる保育士として活躍



保育補助員として活躍



11 鈴鹿市の就学前施設における課題

入管法の改正により、今後
外国籍児童の増加や多国籍化の広がりが予想される



外国籍児童が、安心して園生活を送り、
保護者が安心して児童を園に預けることができるためには・・・

小学校教育への円滑な接続に向けて・・・



受入体制の充実が不可欠



就学前施設で外国籍児童に対応する通訳・保育士の配置

12 関係省庁への投げかけ

<外国人市民が日本語を学ぶ体制整備>

■「日本語教育推進法」に基づく施策

- ・今後の施策の展開は ⇒
- ・ボランティア頼みではなく、国や自治体、事業主がそれぞれの役割を果たし、連携して取り組んでいくための仕組みの構築

<就学前施設における外国籍児童の受入体制の充実>

■保育体制強化事業補助金の要件緩和

→補助額を増額し、通訳の雇用につながる制度への見直し

【現行】 1か所当たり ⇒ 1人当たりへ
月額10万円 ⇒ 増額

■家庭支援推進保育事業補助金の要件緩和

→保育士の加配だけでなく、通訳も対象となるよう見直し

平成31年4月の改正により
対象児童に「外国人子育て家庭」
が加わった。

■補助制度の創設

→通訳の雇用に特化した補助金制度の創設